

連載

宇宙を観じる生活を！ (11)

～黄華堂通信より～

黄華堂（代表：有本淳一、メルマガ編集長：鈴木裕司）

「子どもたちに本物の星空を！」をモットーに関西を中心に観望会などの活動をしているボランティアグループ、黄華堂が配信しているメルマガジン、『黄華堂通信』[1]。星空案内、天文に関する絵本の紹介から研究従事者による研究紹介、はたまたクイズや今年注目の天文現象と、いろいろな話題を提供しています。ここでは連載でメルマガの話題をごくごく一部ですが紹介しています。今回は宇宙飛行士についての記事をご紹介します。

1. 黄華堂宇宙検定

ここ数年、日本人の宇宙飛行士の活躍が取り上げられることが多くなりました。2012年には星出彰彦宇宙飛行士が国際宇宙ステーションに長期滞在し、2013年末には日本人が再び国際宇宙ステーションに長期滞在する予定です。そこで、今回は国際宇宙ステーションについての問題です。

(1) 2013年末に、国際宇宙ステーションへ向かう予定の日本人宇宙飛行士は誰でしょう？

- (あ) 野口聡一 宇宙飛行士
- (い) 古川聡 宇宙飛行士
- (う) 若田光一 宇宙飛行士

(2) 国際宇宙ステーションと地球の間では、滞在する宇宙飛行士の食料や実験設備・宇宙実験の結果など、物資の輸送もとても大切です。現在、物資輸送を期待されている宇宙船はどれでしょう？

- (あ) スペースシャトル
- (い) ソユーズ

(う) こうのとりの

(3) 国際宇宙ステーションで使われているカメラのほとんどはどこの国が作ったものでしょう？

- (あ) 日本
- (い) ドイツ
- (う) スイス

問題の答えは後ろにあります。
(石井優子、黄華堂通信 2011年8月号を改変)

2. うちゅうへいこう

2010年6月2日、約5カ月の宇宙滞在を終え、野口聡一宇宙飛行士が地球に帰ってきました！

というわけで、今回紹介するのは宇宙開発をテーマにした絵本。実はこの絵本、野口さんが前回宇宙から帰ってきたときに出された本なのです。表紙もちろん野口さんの写真。若い！（笑）

* * * * *

『ふしぎだな？ブック4

うちゅうへいこう』

取材・文 林 公代、監修 JAXA

ISBN 978-4-418-05806-8 (世界文化社)

皆さん、宇宙に行きたいですか？スペースシャトルや国際宇宙ステーションで活躍する宇宙飛行士、カッコいいですよ！この絵本は、日本人宇宙飛行士の野口聡一さんを主人公に、宇宙に行くための訓練の様子や宇宙での生活について紹介している本です。

野口さんの幼いころの写真や、小学生のときに描いた絵も登場して、宇宙飛行士が身近

に感じられます。ちなみに野口さん、7歳の時に、「ぼくはロケットのそうじゅうしになりたい」って書いているんですよ！幼いころの夢をしっかりと実現させたんですね。

宇宙での生活については、食事の様子、寝るときの様子などが、実際の写真で解説されています。

そして、宇宙飛行士の宇宙での仕事について。ここでは、国際宇宙ステーションの組み立てについて重きを置いて説明されています。冒頭の野口さんのメッセージにも、「うちゅうのだいくさん」という言葉が。いいですね、「だいくさん」。

途中の見開きのページには、宇宙飛行士が宇宙ステーションを組み立てるときにつかう道具が紹介されています。大人向けの本も含めて、宇宙飛行士が使う道具が取り上げられているのはこの本だけじゃないでしょうか。この部分だけでも必見ですよ！

2005年当時の本ですので、少し情報が古いところもありますが、これから日本人が宇宙に長期滞在する機会も増えるでしょう。ニュースで彼らの活躍を見ることも多くなるはずです。この本は、そんなときにお子さんに見せてあげたい本の一つになるのではないでしょう。

(塚田健、黄華堂通信 2010年6月号より)

3. 黄華堂宇宙検定の答え

(1) う

若田宇宙飛行士が12月から国際宇宙ステーションに長期滞在予定です。若田宇宙飛行士は日本人初のコマンダーとして、滞在期間中の指揮をとることになります。

国際宇宙ステーションは肉眼で見ることができます。以下のサイトから見やすい日時を確認して、探してみましょう。

<http://kibo.tksc.jaxa.jp/>

(2) う

アメリカの宇宙船スペースシャトルは、7名の宇宙飛行士と物資を運ぶことができる再利用可能な宇宙船でしたが、30年の運用の間には事故もあり、2011年7月のアトランティス号の飛行を最後に運用を終了しました。

ロシアの宇宙船ソユーズは宇宙飛行士を3人運ぶことができますが、大きな実験設備などの物資は運べません。

日本の宇宙船「こうのとりのり」は宇宙ステーション補給機として非常に高い精度での運用が開始されました。これからも物資輸送に期待が高まります。

また、欧州宇宙機関(ESA)もATVと呼ばれる物資補給機を開発し、これまでに2回打ち上げています。

(3) あ

国際宇宙ステーションで使われているカメラやビデオは、ほとんどすべて日本製です。いろいろな国のクルーが使っています。嬉しいですね。

文 献

[1] メールマガジンの配信については、こちらから登録できます。

<http://www.mag2.com/m/0001114021.html>

鈴木 裕司